

令和8年第1回滋賀県社会教育委員会議 概要

日時：令和8年7月9日（木）9:30～12:00

会場：大津合同庁舎7階 7A会議室

出席委員（委員名簿順）

早川 和彦 委員	中塚 薫 委員	川端 一 委員	山添 友美 委員
藤原 麻美 委員	森 佐江子 委員	平松 成美 委員	松村 亜有子 委員
上田 洋平 委員	四方 康博 委員	中村 一彦 委員	高橋 宏和 委員
尼崎 真実 委員	津田 雪乃 委員		(14名)

1 開 会

- (1) 教育長挨拶
- (2) 自己紹介
- (3) 説明

2 議 事

- (1) 議長・副議長の選出について
- (2) 滋賀県社会教育委員会議（令和8、9年度）の審議について
 - ・討議1：前期の社会教育委員会議の提言と今期のテーマ設定について
 - ・討議2：今期の審議、研究調査の進め方について
- (3) その他

3 閉 会

- (1) 課長挨拶
- (2) 事務連絡

【配付資料】

- 資料1 滋賀県社会教育委員名簿
- 資料2 滋賀県社会教育委員に係る関係法令等（抜粋）
- 資料3 滋賀県社会教育委員会議（令和8、9年度）の審議について
- 資料4 令和8年度 滋賀県社会教育委員会議年間予定 概要

【配付物：冊子およびリーフレット等】

- ・滋賀県社会教育委員会議 提言（令和8年3月）
- ・滋賀の教育大綱（第4期滋賀県教育振興基本計画）
- ・魅力発信！社会教育士
- ・滋賀県社会教育委員連絡協議会研修会チラシ
- ・令和8年度全国社会教育研究大会（大阪大会）開催要項
- ・コミュニティ・スクールリーフレット 他 各種リーフレット、研修会チラシ等

1 開 会

- (1) 教育長挨拶
- (2) 自己紹介
- (3) 説明：日程、配付資料、社会教育委員の職務等

2 議 事

- (1) 議長・副議長の選出について

議長：川端 一 委員 副議長：上田 洋平 委員 を選出

- (2) 滋賀県社会教育委員会議（令和 8、9 年度）の審議について

- ・討議 1：前期の社会教育委員会議の提言と今期のテーマ設定について

川端議長

審議テーマに関わって討議に入らせていただく。今期の審議テーマならびに今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

生涯学習課 堤（前期報告書、資料 3 で説明）

○前期会議の提言の内容について

審議テーマ「地域への誇りと愛着を育む社会教育のあり方～学びを通じた地域社会のつながりづくり～」について 2 年間に 4 回の会議を開催。研究調査活動として視察 2 箇所、それぞれ事例報告をいただいた。

報告書内「4. 提言」は、次の 2 点で記載している。

【提言 1】「ここちよいつながり」が生まれる社会教育

【提言 2】つながりや学びを「縁出（えんしゅつ）」する人材の育成

特に、【提言 1】では、■多様な出会いを創出 ■新たな気づきや学びの創出 ■ネットワークの多様化・多層化 に整理し、審議したことをまとめている。

さらに、【提言 2】では、■連携・協働を“支える人を支える”社会教育人材 ■誰もが活躍する学びの場を生む社会教育人材 の 2 点に整理してまとめている。

それらを具体的な施策に反映するために、視点の👉を示している。その視点を大切にした施策を、令和 8 年度から当課事業では取り入れている。今期はそれを踏まえて当課事業への評価や御意見をいただきたい。

○今期のテーマについて

審議テーマ「地域社会のつながりや学びの機会を生む社会教育人材の育成について」

前期会議の提言を受けて、社会教育人材の育成や活躍促進のための支援の方策を審議テーマとしたい。

社会教育人材の専門性を高め、現場で持続的に活躍するための支援体制の構築が県全体の社会教育推進に寄与する。また、今後の社会教育にかかる施策を進める上でも社会教育士は重要な存在である。社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、行政や企業、NPO、学校等の様々な場で、人づくりやつながりづくり、地域づくりに中核的

な役割を果たすことが期待されており、その育成について審議していただきたい。

1年目は令和8年度事業「まざる つながる ひろがる」ワクワク子ども体験活動環境づくり事業の実施と並行して、その事業評価や社会教育人材の資質向上のあり方について審議を行い、社会教育への有益な示唆をいただきたいと考えている。

審議方針について、令和8年度は、審議テーマに関連する県事業および委託事業、県内各地の取組について研究調査を進め、令和9年度は、各委員の皆様から現地視察・研究調査を通じた話題提供や関係各所からの情報提供をいただき、学びを通じた地域社会のつながりへの社会教育の役割について具体的に審議いただければと考えている。

全体での会議は2年間で4回の予定であるが、研修会への参加、現地視察など研究調査活動や、小グループでオンラインでの意見交換の場の設定を考えている。具体的なスケジュール等については、討議2の中で提案する。

川端議長

前期の2年間で、地域への誇りと愛着を育む社会教育をテーマに議論し、5つのキーワード、提言、チェックシートを作成した。今期は社会教育を担っていく人材について議論をしていきたい。社会教育の人材は大変幅が広い。どのような人材をイメージされているのかも含めて、上田副議長にファシリテーターをいただき、グループで進めていきたい。今期のテーマとして、「地域社会のつながりや学びの機会を生む社会教育人材の育成について」という方針で進めていくことについて、よろしいか。

(委員の了承あり)

それでは、この方針で進めていきたい。討議1に入る。ここからは上田副議長にファシリテーターをお願いする。

(A、B、C、オンラインの計4グループに移動)

上田副議長

今期のテーマに基づいて、社会教育人材のイメージを出し合って、頭の体操をした上で議論を進めていきたい。まず、社会教育の分野で活躍する人材に求められる力、望まれる力について3つほど出し、それを共有するところから始めたい。

(各自ワークシートで作業、その後グループ協議)

上田副議長

それでは、各グループで出たものを共有したいと思う。まずはAグループからお願いする。

松村委員 (Aグループ)

コミュニケーションの力とか、人をつなぐ「ファシリテーション能力」。私は「聞く」と書いたが、中村委員から耳を傾ける「聴く」と教えていただいた。一方的ではなくて

吸収しながら「きく」という大切さを学んだ。あとは「行動能力」と、アンテナを張りながら地域と関係をつくっていく「アンテナ力」が非常に大事になるという話が出た。

高橋委員（Bグループ）

「調整力」、「アイデア力」、「発想力」、「つなぐ力」などが出た。山添委員からコロナ禍の影響についての課題提起があった。コロナ禍よりも、今になって非常に影響が出ているのではないかと。人の心を読み取る力や、他者に対面することに対するハードルが今になって影響しているという話があった。また生成AIに対してどのように向き合っていけばよいのかという話が出た。

森委員（Cグループ）

「巻き込み力」や「コミュニケーション力」など共通するものがいくつか出た。「巻き込み力」は、イメージとしては分かるが具体的にはどういうことなのだろうとか、学校と社会教育の関わりはどのようなになっているのかなどイメージを広げていった。

津田委員（オンライングループ）

第一に「体を動かし現場に向かう力」。机上の空論ではなくて、現地に出向くことに楽しみを見出す力や、人のために思う力。「お節介力」もここに含まれ、自分から地域に入り込んで愛情を持って声かけをしていく姿勢。第二に「人を巻き込んでつなぐ力」。現場で人間関係をかき混ぜてコーディネートしていき、主体的な意見を引き出す力。最後が「共に歩む姿勢」。単に人と人をつないで終わりではなくて、地域が自走していけるように「伴走していく力」が出てきた。

上田副議長

出していただいた力は、これから議論していく時のヒントになると思う。これからは全体での意見交換に移りたい。

川端議長

感想も含めて出していただきたい。

中村委員

皆様の発表を聞かせていただき、言葉の内容は違うが、思っている中身は全て同じだと思った。一点、私が思っていることは、さっき津田委員がおっしゃった、いかに自走させていくか、そのためにいかに伴走していくかということだ。これは民間企業もそうであるが、「持続力」、「継続力」がこれからの混迷を深める社会には必要ではないかと思っている。意志だけではやはりできないので、教育委員会には金銭面の支援も必要になってくると思っている。

四方委員

私も自走の話を聞いて思ったのは、教えるとか、上から目線はやっぱり駄目だと思う。偉そうに教えたり指導したりするのではなく、基本的には「一緒に学びましょう」というスタンス。私自身、完璧じゃないし、人権侵害をするかもしれない。スタンスとして対等に一緒に学びましょうという姿勢を持っていないと、誰もついてこないということを改めて感じた。

松村委員

私は地域で居場所づくりの活動などもしているので、社会教育の中にどっぷり入っているという形になるが、子どもたちの体験の少なさについては、日々感じている。その活動を自走させるというのは、大変難しいことだと考えているが、私たちだけで活動できるわけではないので、他の社会教育に関わっている方にサポートしてもらいながらやっていきたい。

藤原委員

各グループで発表していただいた「力」は積極的に前に向かっていく力であったが、森委員がおっしゃったことだが、そうじゃない人ってなかなか関われないのかな、という話であった。知らず知らずに社会教育に触れている人たちはたくさんいるけれども、それが社会教育の活動だとつながっていない人が多い。特別な力も必要だけれども、「誰でも取り組める社会教育」というのを広げていくのが大事ではないかと感じた。

尼崎委員

改めて社会教育人材には機能として2つあると思った。一つが「集め方」で、二つめが「集まり方」。集める時に必要な資源の需給と言うか、学校現場からのニーズと、地域にいる人たちがどうつながったらいいか分からないというところの難しさを感じている。もう一つの集まり方というのは、「問い」を出して、その問いについて一緒に考える人が集まるという形である。自分だったら何ができるか、改めて問い直したいなと思った。

中塚委員

久しぶりに、社会教育とは何かを考えるいい機会になった。印象に残ったのは、ディスカッションも大事だけれども「聴く」ということはもっと大事ということ。積極的に入っていく人ばかりではなくて、なかなか入っていくことができない人にどうきっかけをつくっていくかを大事に考えていきたいと思った。

森委員

図書館という社会教育施設で仕事をしているが、積極的になれない人がすごく気になっている。居場所として、ここにいていいのかな、と思っている人たちがたくさんおられる。そういう人たちに「ここにいていいんだよ。」ということをどう伝えていけばいいの

か、何かお知恵をいただけたらと思った。

山添委員

P T Aに携わる中で、子どもたちの「自己肯定感」が低いというのをよく聞く。誰かに相談するところを、生身の人間よりもA Iに聞いてしまい、A Iを一番信用してしまう。そこが一番怖いところなのかなと感じている。人から教えてもらうなど、色々な方の考え方を聞くことは自信をつけるきっかけになるので、「誰かに聞くことができる環境」を社会教育の中でつくっていかればと思っている。

平松委員

前期から社会教育委員をさせていただいているが、私自身、地域で活動しているので、それを意識せずして社会教育をしていたなという気づきがあった。地域の中にはボランティア活動などで活動を起こしている人がたくさんいるので、それが社会教育なのだというのを、自然と感じられるようになればよいと思っている。

早川委員

学校の昼休みに、地域の方が学校に来て居場所づくりを担ってくださっている。一緒に双六をしたり、のんびり過ごす子に寄り添ったりするなどの活動が始まった。これは大々的な募集をしたわけではなく、口コミで人が人を連れてきたという感じである。ご本人たちは社会教育とは思っていないだろうが、いい動きだと感じている。

高橋委員

滋賀県社会福祉協議会では、レイカディア大学をしているが、多世代やシニアの方に教えてもらうということが非常に重要だと思っている。そういったことも何か反映できる機会になればと思った。

津田委員

教育学部で社会教育士になるための課程を専攻しているが、大学生としての知識と若者としての感覚をかけ算できないかなと考えている。遠慮せずに、学生としての意見をどんどん伝えていきたい。私の友人に聞くと、「社会教育って何？」とか「定義が分からない。」と言われることが多い。そのリアルな声の代弁者となれるように発信していきたい。

川端議長

多世代間で、経験の中で感じられたことを出し合う機会はとても大事だ。社会教育の「教」は教える、「育」は育てるだが、共に育つ「共育」という心意気で、これからの会を進めていきたい。

上田副議長

私が勤務する大学は、「人が育つ大学」をモットーとしている。生き物の中にはそもそも学ぶという行動がプログラムされていて、何かのきっかけや環境——これを解発者、リリーサーというが——に出会った時にそのプログラムが「解発」、発動される。外側から人を育てるのではなく、学ぶことをはじめとして、その人の中にある可能性を「解発」するリリーサーがいっぱいいたり、スイッチがあちこちに埋め込まれている場をつくる、そういう場を育てる。それを「人が育つ」という言葉で表している、そういう「“人が育つ” が育つ社会」をどうつくるか、ここで議論できたらいいなと思った。

・討議２：今期の審議、研究調査の進め方について

川端議長

今期の審議、研究調査に関わって討議に入らせていただく。事務局から説明をお願いします。

生涯学習課 堤（資料４で説明）

資料４は、令和８年度の会議等の予定の概要である。会議として、社会教育委員会会議が２回、１２月ごろに小グループでの Zoom 会議を予定している。

全国社会教育研究大会、滋賀県社会教育研究大会については、可能な限り１回は参加をお願いしたい。

研究調査に関して、まず、令和８年度の委託事業である、「まざる ひろがる つながる」ワクワク子ども体験活動環境づくり事業への参加をとおして、社会教育人材の資質向上の取組について評価していただきたいと考えている。年間５回の研修会やイベントの予定があるので視察や参加をご検討いただきたい。これから、受託者である一般社団法人 yourship の 梅村代表理事 より事業について説明していただく。

梅村代表理事

今、体験格差と言われているが、子どもたちが体験する機会が減ることは「好き」と出会う機会が減っていることだと思っている。地域住民や事業者と一緒に無数の体験機会をつくっていききたい。社会教育には、可能性があると思っている。

事業は二つあり、一つは「ほうかごたいけん教室」である。小学校の家庭科室などを使い、地域の企業や住民の方に色々な体験講座を実施してもらっている。企業の方も、子どもから色々な学びを得ておられる。もう一つは「木の子ども通貨 木貨 (mocca)」である。イベントなどで、子どもがお店への呼び込みやチラシ配りの手伝いをするすることで、イベント内で使えるお金を稼げる仕組みである。自分で稼いだお金でお父さんやお母さんにものを買っている姿に感動したこともある。この仕組みはまさに社会教育だと思っている。

今回の委託事業「S. H. I. P. プロジェクト」では、社会教育士を本当のつなぎ役にし

ていこうと考えている。社会教育士の称号は取っただけでは仕事生まれるわけではなく、自分からアクションを起こさなければならない。全5回の研修を通じて、実践の場を見て、ワークショップをするなどし、自分に何ができるかを考える場にしたい。最後にはリーフレットも作成し、社会教育を広く知っていただく機会をつくりたいと思っている。

生涯学習課 堤

今後は、委員の皆様の地元や関心のある地域で、社会教育人材に注目した研究調査を可能な範囲でお願いしたいと考えている。12月のZoom会議や2月の会議で交流し、令和9年3月にはリーフレット形式での報告ができればと考えている。

川端議長

尼崎委員、コメントがあればどうぞ。

尼崎委員

さすがのプレゼン力だと思った。体験格差については、やったことのないことに対して、「食わず嫌い」でやらないという子が増えていると思う。まず「味見」をしてみようよ、一回食べてみようよ、という機会を与えることが大事なのかなと思った。

松村委員

社会教育士の称号は、取ったから何ができるというわけではないが、取ったからこそつながる人材があると思う。行政の方々はどうやって社会教育士を増やすか悩まれているが、身近で活動されていることが広まれば、なりたい人が増えてくるのではないかなと思う。

平松委員

マキノの3つの小学校が、再来年に1つになる。放課後教室をぜひ実施してほしいと思っているので、また梅村氏にご相談させていただきたい。9月1日の講座も是非行きたいと思っている。

中村委員

去年9月に、梅村代表理事が開催された立入が丘小学校での「ほうかごたいけん教室」で食育講座を実施した。子どもが生き生きと体験をする姿を見ることができ、大変よかったと思っている。弊社は滋賀県教育委員会と20年前から協定を結び、食育講座を開催している。

川端議長

平松委員が言われた小学校の合併についても、琵琶湖に面していたり、山があったり、平野があったりと、フィールドを有効に使ったら面白いことができそう。

森委員

今、活動されている中で、何か課題や壁を感じていることがあれば教えていただきたい。

梅村代表理事

一番大きいのは「マンパワー」。二人でやっているのですが、平日に動ける時間が限られている。もう一つは「お金」の部分で、教育自体にお金がつきにくい。塾のような流れではない、お金の流れをどうつくるかが課題である。ただ、地域で実践するのはその地域の人がいいと思っているので、今回の事業を通じて人を見つけ、ノウハウをシェアして、それぞれの地域でできるようにしていきたいと思っている。

川端議長

早川委員、学校を応援してくださる地域の人材について、もう少しお話しいただきたい。

早川委員

昼休み教室は、勝手に始まったわけではなくて仕掛けた人がいる。地域学校協働活動の推進員の方である。「こういうことをやってみたいが、校長先生いいですか？」という相談を受けたので、「どうぞやってください。」ということで始まった。教職員だけでは安全確保が難しいが、ボランティアを募って見守りや寄り添いをしてもらっている。これも推進員の方がチラシを作って集めてくれた。

上田副議長

「どうぞやってください」と言えるためには何が必要であるか。校長が変わっても、持続可能な学校でありたいということが根底にあるのか。

早川委員

推進員の方とは、日頃からやり取りしていることによる信頼関係があつてのこと。ただ闇雲に事業を持ち込まれると教職員がしんどい思いをするので、その見極めは難しいところ。私はかつて、社会教育主事として県生涯学習課に務めた経験もあるので、学校現場でそれを活かして恩返ししたいと思っている。

梅村代表理事

今の話は学校と地域の理想の形だと思う。私たちは社会教育士や法人としてフィルターをかけて、「この人は大丈夫です、私たちがちゃんと選んだ人です。」ということで学校の先生の助けになれたらいいなと思っている。

中塚委員

本校では学校運営協議会をスタートさせて3年目になるが、地元駐在所の警察官の方に委員になってもらい、入学式や発表会など色々なところで見守っていただいている。他にも、卒業生の保護者の方に図書室の整備をしてもらったり、栗東トレセンから馬糞をもらったりして、畑の野菜づくりに活かしている。地域とのつながりを感じている。

山添委員

P T Aの課題についてだが、任意加入というところがニュースになる中で、脱退する方がすごく多くなっている。P T Aがないところもある。いかにP T Aが必要なのか、何のためにあるのかという基本を忘れずに話し合いながら進めていきたい。

梅村代表理事

私も今、守山市のP T A連絡協議会の会長をしているが、組織を残すことが目的になる組織は衰退していくと思っている。子どもたちや保護者のために何をするか、というところに時間を使うべきだと考えて、守山市では「P T A大会」をやめて「守山教育サポーターズ交流会」と名前を変更した。P T Aという枠組みにこだわらず、サポーターの集まりにしていこうという動きをしている。

四方委員

社会教育人材のイベントというのは、社会教育士のことだけを言っているのか、それとももっと広い意味であるか。

生涯学習課 堤

社会教育士が主催されているものや、地域で熱心にイベントなどをされている方など、幅広く捉えていただけて結構である。

(3) その他

川端議長

その他の項目について、事務局いかがか。

生涯学習課 堤

委託事業である、9月1日（火曜日）の立入が丘小学校での体験講座に、是非ともたくさんの方の委員の参加をお願いしたい。

3 閉 会

(1) 課長挨拶

(2) 事務連絡